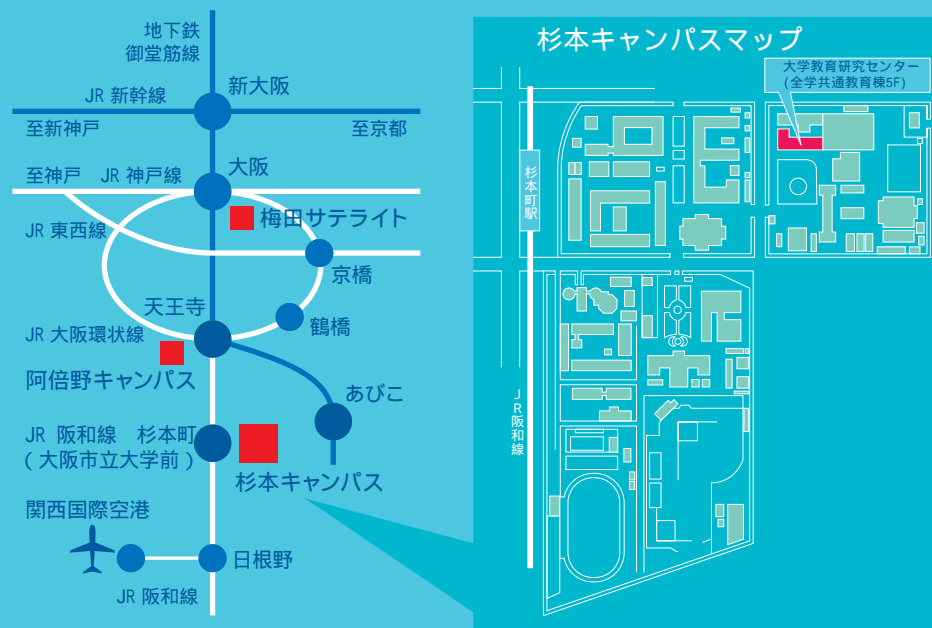


アクセスマップ

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
 JR 杉本町(大阪市立大学前)駅 下車、東へ徒歩約5分
 地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分



RDHE

Osaka City University
 Center for Research & Development of Higher Education



大阪市立大学 大学教育研究センター

研究員の紹介

平成18(2006)年4月現在

所長	中村 圭爾	副学長	
専任研究員	矢野 裕俊	副所長 大学教育研究センター教授	研究分野:生涯学習社会における学校教育の役割 / 学校カリキュラムのあり方に関する理論と政策の国際比較研究
	大久保 敦	大学教育研究センター助教授	研究分野:高校大学の接続 / 自然史科学教育 / 古植物学
	西垣 順子	大学教育研究センター助教授	研究分野:大学教育の評価に関する研究 / 教育心理学
	飯吉 弘子	大学教育研究センター講師	研究分野:社会における大学のあり方に関する研究 / 大学教育学 / 高等教育史
	渡邊 席子	大学教育研究センター講師	研究分野:教育支援・授業支援システムの開発 / 社会心理学
兼任研究員	青山 和司	経営学研究科教授	坪田 誠 理学研究科教授
	坂上 学	経営学研究科助教授	根本 泰雄 理学研究科講師
	中村 健吾	経済学研究科教授	日野 泰雄 工学研究科教授
	瀧川 裕英	法学研究科助教授	三浦 克之 医学研究科教授
	瀬戸 賢一	文学研究科教授	友田 尋子 医学部看護学科教授
	早瀬 晋三	文学研究科教授	中井 孝章 生活科学研究科教授
	辻本 英夫	文学研究科助教授	大西 克実 創造都市研究科助教授
	幸田 正典	理学研究科教授	

RDHEのロゴ・デザイン:吉谷ひかり



ロゴデザイン:吉谷ひかり

since 2003

設立の趣旨

社会・経済・文化のグローバル化が進み、国際的な競争の激化とともに新たな社会問題が出現する中で、社会から大学に寄せられる期待もますます大きくなってきています。高等教育を本来の使命とする大学には、社会の要請に応えることのできる人材を育成することが求められており、そのための教育の質の向上は差し迫った課題です。

今日、大学は大きな転機を迎えています。転機の一つは、大学への進学率がすでに50%を超えたということに現れています。ユニバーサル化時代を迎えた大学教育はどうあるべきか。これは日本社会がはじめて直面する大問題です。

本学は、1928年にわが国で最初の市立大学として大都市・大阪市により設立されましたが、本年(2006年)4月に、公立大学法人・大阪市立大学に移行しました。公立大学法人として、これからの世界、日本社会、とりわけ大阪市にどのように貢献していくのかが問われています。そこに本学の存立にかかわる使命の一つがあります。

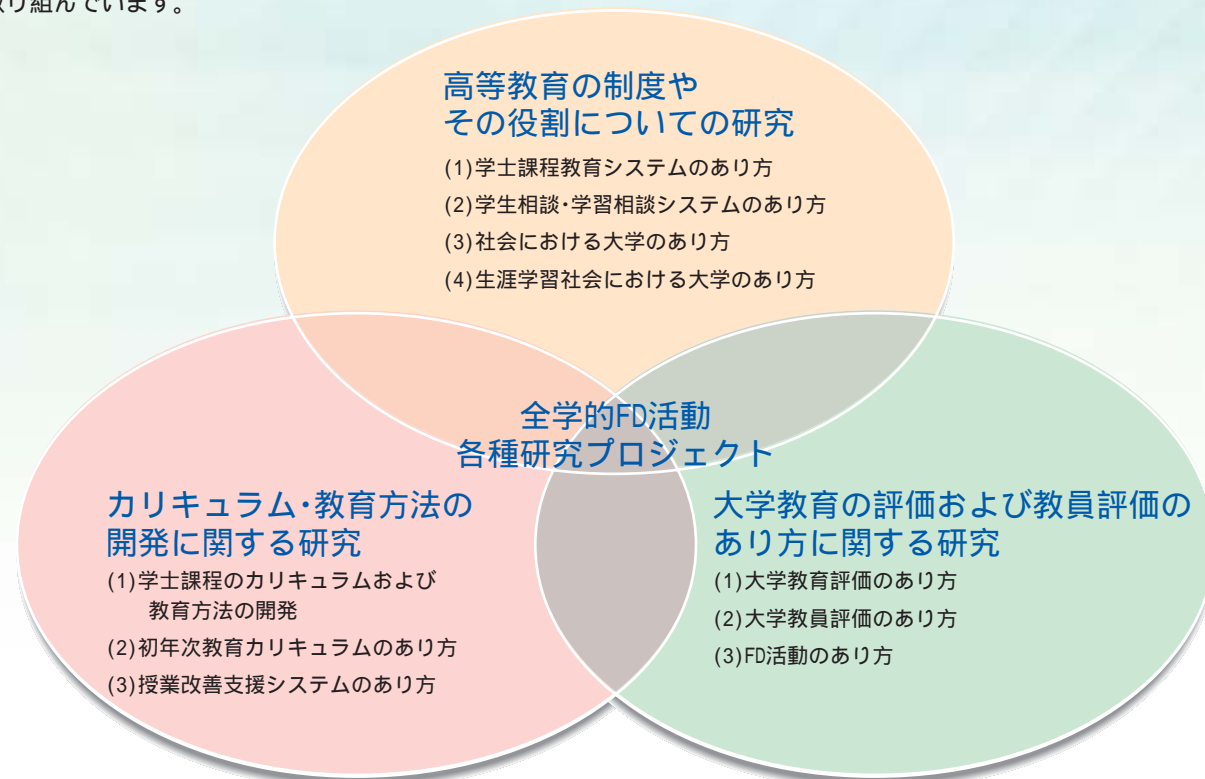
大学教育研究センターは、大学を取り巻く新しい環境の中で、これからの社会の進路を見据えた大学教育のあり方を実現することを目指して研究と開発をすすめるために設立されました。本学は、法人化を大学改革の好機ととらえ、教育改革をその主要な課題と位置づけており、本センターの役割はますます重要になってきています。

大学が自らの使命を果たすためには、教育の内容を刷新し、その質の向上を図ることが必要です。そのための課題として、取り組むべきことは主に3つあると考えています。第1に、大学と地域社会、大学と他の教育機関との関係など、これからの社会における大学のあり方を検討することです。第2に、大衆化した大学の実情をふまえ、これからの社会を担う人々を育てるカリキュラムや教育方法のあり方を研究・開発することです。第3は、大学における不断の教育改善をすすめるための評価のあり方を研究するとともに教員の組織的な研修のあり方を研究開発することです。

大学教育センターはこれらの課題に取り組んでいきます。

センターの研究概要

大阪市立大学 大学教育研究センターは下記の3本の柱を基本に据えつつ、相互に強く関連をもつ各種研究プロジェクトに取り組んでいます。



センターの研究活動

FD活動

(1) FD研究会

年に1回開かれるFD研究会は、大阪市立大学における教育の改善を図るための組織的な研修や教育に関する研究活動の成果に関し、全学的な交流をはかる場として設定されています。2005(平成17)年度の分科会および全体会のテーマは次のとおりです。

- 第一分科会テーマ:「大学院教育の最前線」
- 第二分科会テーマ:「授業を越えた教育活動・学生支援」
- 第三分科会テーマ:「学生の「学力低下」をどう考えるか」(ラウンドテーブル)
- 全体会テーマ:「学士課程教育の今を考える～大阪市大はどういう人を育てるのか」

(2) 教育改革シンポジウム

年に1回催される教育改革シンポジウムは、全学的に共有可能なホットトピックについて、大学内外の情勢に鑑みながら考えを深めることを目的に開かれています。2005(平成17)年度は、「外から見た大阪市立大学の教育」をテーマに開催しました。

(3) 大学教育研究セミナー

年に2～3回の頻度で行われている大学教育研究セミナーは、ワークショップ形式またはラウンドテーブル形式等を取り、主に学内の参加者間で大学教育にかかわるホットトピックについての意見交換を行う場として設定されています。

研究プロジェクト(2006年～)

(1) 初年次教育

近年、大学に入学してくる学生はさまざまな入学者選抜を経ているばかりでなく、それまでの学習履歴や興味・関心も多様であるため、大学での学習にスムーズに適応することに困難を感じる学生も増えてきています。高等学校卒業までに学ぶ機会のなかった科目の履修のためのリメディアル教育、資料の探し方・レポートの書き方・発表の仕方など、大学で学ぶうえで必要となるスタディ・スキルの教育、自立した学生生活を送るためのガイダンス的教育などを総称して初年次教育と呼び、そのあり方を研究開発しています。

(2) 学生の受け入れにかかわる調査

大学では授業ごとに履修した学生の把握は行ってきましたが、一人の学生を中心に入学から卒業までを一貫してその状況を把握し、指導に反映させるような体制はこれまであまり一般的ではありませんでした。しかし、近年学生の多様化が進み、このような視点で学生の状況を的確に把握し、受け入れ態勢に反映させることが必要不可欠になってきました。2005年度より、関係部署と連携をとりながら学生の受け入れにかかわる調査について、複数のプロジェクトを立ち上げました。高校から前期学士課程(特に大学初年次)そして後期学士課程へと円滑な接続の実現を目指して、現在プロジェクトを推進しています。

(3) 授業改善支援システムの構築

講義、演習、実験、実習等さまざまな形式をとる大学の授業を改善するための手がかりを得る手段として、学生による授業評価アンケート調査をいかにデザインするか、いかにその結果を授業改善に利用していくかについて試行を繰り返し、授業改善支援により役立つアンケート調査のあり方、教員へのフィードバックのあり方を検討します。また将来的には、個々の教員による日常的な授業改善への取り組みを的確に評価するための教育業績評価方法に関しても検討を行っています。

研究成果の発信と広報

(1) 大阪市立大学大学教育」

主として本学の教育に資する研究成果の発表の場とすることを趣旨として、学内はもとより全国から投稿を募り、現時点では年に1回発行しています。査読付の学術雑誌です。

(2) 大学教育だより

年に2回、教員および学生を対象として、大阪市立大学におけるさまざまな教育への取り組みをまとめた広報紙を発行しています。

(3) Un Roseau(アン ロゾ)

年に1回、大阪市立大学での学びの道しるべとして、総合教育科目ガイドブック「Un Roseau」を発行し、新入生の皆さんに配布しています。